

平成 21 年度第 8 回 下山地域会議 会議録

【日 時】平成 21 年 11 月 19 日(木) 19:00 ~ 21:00

【場 所】下山交流館第 11 会議室

【出席者】委員 11 名出席 4 名欠席

事務局 加藤支所長 原田 西山 鶴田 加藤

【次 第】1 あいさつ

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

4 協議事項

(1)分科会ごとのまとめについて

(2)今後について

5 今後の予定

料理コンテスト実行委員会

11月25日(水)19時より 下山交流館12会議室

おいしくて安心・安全農作物栽培講座

12月11日(金)13時半より 下山交流館11会議室

第9回地域会議

12月17日(木)19時より 下山交流館11会議室

---

【内 容】

1 あいさつ

(会長)みなさんこんばんは。今日もよろしくお願ひします。

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

全委員承認

4 協議事項

(1)分科会ごとのまとめについて

(会長)分科会ごとにまとめを発表し、その内容について全体として、どのように取り扱っていくかを話し合う場としたい。農林業分科会。

(委員)産直の連絡会を定期的に関き話し合いをし、今後リーダーを作り出して連絡会そのものを独立した形に持っていきたいと思っている。その中で、産直の活性化について検討し、まとめていきたいと思う。

(会長)続きまして、子ども分科会。

(委員)保健師に定期的に来てもらう方法を考え、母親や子どもが健康診断や測定を含めて、サークルづくりができないかということを行っている。行政と上手くタイアップして支所と協議をし、利用しやすい方法を考えることが必要だと思う。子育て支援センターも今以上のPRも大事だと考えている。もう一つ、子どもが遊べる広場の遊具設置で、香恋の館の対岸の広場に長い滑り台、アス

レチックの設置や、まどいの丘には遊具が屋内にしかないため、屋外にも設置できる方法がないかと考えている。もう一つは、小公園を整備で、地域住民の方々と本当に必要かどうかを話し合い地域にあった具体的な方法を考えていく必要があると思う。遊び場マップは作成中。

(会長) 地域会議として、お互いが意見の共有をし、分科会を中心に地域会議全員で協議する方法を進めたいと思う。まず、農林業分科会について。

(委員) 来年度の地域予算提案事業は、産直マップと、旗を作ること。連絡会のリーダーは年度代わり位までに見つけたいと思っている。生産者を巻き込み、定期的にどんな作物を作るかなどのお話をし、無農薬や安心安全な作物づくりから、栽培履歴をきちっと出していかないといけないため、そういう指導もできるように考えていきたいと思っている。

(会長) リーダーができれば、来年度は切り離す。そのことに対してどうですか。

(委員) 良いことだと思う。

(会長) 今回は産直に目を向けたが、違う方向もある気がしますが。

(委員) 根本には農業の活性化がありますが、産直をもう少し見ていきたいと思う。

(会長) この会が動いていくということで一区切りとなると思う。子ども分科会の内容は。

(委員) 保健師が引き揚げられた理由の1つが、地域差があってはいけない、下山を含めたそれぞれの地域にフィードバックしてもらって、より有効な方法で活動がしていただけたらということをして1つ提言していきたい。公園は地域が望まないといけない。要望をすれば公園課の予算でできる可能性があるため、区長会と協議しながら継続して考えていきたい。香恋の館は支所が管理を任されているため地域会議で話をし、必要であれば支所と協議し今年度中に方向付けができる。

(委員) 遊具が本当にいるのでしょうか。サッカーをやりたい場合は、遊具を作るより広い場所があった方が良く思う。

(委員) 遊具は傾斜を上手く使った滑り台とか、傾斜を利用した遊具を考えたいと思う。広場を狭くしなで空いている土地を上手に使う遊具を考えたいという提案。

(会長) 子どもが遊べる香恋の館、まどいの丘、小公園について今後話し合っていきたいと思うが、考えていく上で、聞いておかなければいけないことがあれば。

(委員) 香恋の館の対岸規模の広場を作ろうとすると、要望する地域の区長が中心となって、用地の話から様々な協力が必要になる。その地域に必要などうか、提案事業で行うのか、公園課で対応してもらうのか、方法も規模も変わる。一番大事なものは地域の要望。

(委員) 近くの子のためか、遠くからの子も来てほしいのか、使ってくれる人がいるのか、いないのか整理が必要。

(会長) 提言までもっていくということで、なぜ保健師が必要かという具体的な理由という部分と、公園整備について、具体的な方法論と誰が利用するかということ整理したい。

(委員) 若いお母さんは、同級生の子どもがほしいから、お母さん同士が相談をして子どもを作るという話を聞いたことがある。市内の保健師の所に行ったのでは、横のつながりができない。下山で同じような年代の子が増えれば、地域にとっても良いことだと思う。

(委員) 安心して子どもを産んで地域ぐるみで保健師を入れて、仲間同士で意見交換をしながら子育てができる環境が必要に思う。

(委員) こども園にも施設があり、問題があれば派遣してくれる制度はあるが、人数が集まらないため、良い制度はあるが活かしていないという現状はある。育児のノウハウなどの相談ができ基本的な知識を身近にできるところがあれば良い。地域で作ってあげないといけない。

(会長) 今の話し合いをもとに次回意見を求める。次、みりん分科会。

(委員) アンケートをしたが、危機感がなかなか感じられないことから、組織を作っても集落のお荷物になるという懸念があるので、長期的に進めるには代表者による勉強会から始めたらどうか。参加者を出してもらうには勉強会の内容を地域に持って帰って話し合ってもらえるような勉強会を進めていったらどうかを考え、みなさんの意見を聞きたい。

(会長) 地域ごとに危機感をもらってもらうための勉強会をやったらどうか。

(委員) 自覚はあるが、どうしようもないという感じで、方策まで考えられない。何か良い方策があれば、自分の集落もやってみようという気になると思うので、そのための勉強会を地域の代表に出てきてもらい、地域で考えてもらえるように集落として30人の代表が良いと思っている。

(委員) 山村体験をしたい、自分で野菜が作りたい、泊まってみたいという人がいる。段階を踏んで、理想の人が体験をすることが大事だと思うので、そういうことから始めたらどうでしょうか。

(事務局) 分科会の方では、集落ごとに考えてもらう、自分の集落どのようにしたいのかを考えるための意識付けをどのようにしたらよいか。まずは集落ごとに考えてもらうための勉強会をしたいということ。勉強会で考えてもらうことを提示し、集落に持って帰って考えてもらう。そのための勉強会に参加してもらうのに30集落がいいのか、7自治区がいいのか。その時がくるまで考えなくていいから、勉強会自体がいないのか。まず、地域会議で考えていきたい。

(委員) 嫌だって言う所にやれと言っても無理なので、やる気がある所を集めて方向付けをしたらどうか。全部は無理だと思う。30集落なら組長で7自治区なら区長となる。区長に相談すればよい。

(会長) それを含めて、考えてきてもらう。

(委員) 30は組の数。自治区長に連絡を取り、組が全て必要かどうかを区長に任せたらどうか。意見交換をしながら自分達の住み良い集落を作りましょうとすれば、広まっていくと思う。

(委員) 組長は1年交代のため、ある程度継続して出れる人を人選しなければいけない。

(会長) 中身についても考えてきてください。

(委員) 廃校利用についても分科会で話が出ました。今後考えていきたいと思う。

(会長) 今日の協議は以上、第8回地域会議を終わります。ありがとうございました。